

令和元年10月29日

瀬戸市議会議長 長江 秀幸 様

都市活力委員長 高桑 茂樹

都市活力委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

| | |
|------------|--------------------------------------|
| 1 視察期間・行程 | 令和元年10月4(金) 10:00～11:30 詳細は別紙のとおり |
| 2 視察先 | 愛知県尾張旭市 (人口 83,692人 令和元年8月末日現在) |
| 3 視察項目 | コミュニティバス(あさピー号)の運用について |
| 4 視察者及び随行者 | 別紙の通り |
| 5 その他 | |

コミュニティバス(あさぴー号)の運用について

| | |
|-----------------------------|--|
| <p>1 事業の目的及び経緯</p> | <p>平成11年、巡回バスに係る18,000人余りの署名が、「誰でも乗れるしない巡回バスの早期実現と高齢者・障害者への交通助成費を求める陳情書」として提出された。</p> <p>平成15年には交通問題を検討する協議会が設置され、「公共交通のサービス水準が相対的に低い地域を対象として、市による新たな交通手段の確保をすること」「元気で歩けるお年寄りなどを対象に、1人で活動可能な人の交通手段を考えること」などが提言として出された。</p> <p>平成16年から約3年半の試験運行を経て、平成20年に本格運行を開始し、その後も運行ルート、運行本数、車両などの見直し、定期乗車券の導入など、市営バスをとりまく環境の変化や、市民からの要望を踏まえた見直しを行ってきた。</p> |
| <p>2 事業の概要及び事業費</p> | <p>平成20年4月1日にスタートし、現在は2ルートで「右回り」「左回り」の「双方向ループ方式」で運行。1回100円で回数券や定期券もある。未就学児並びに障害者(児)本人及び付添1人は無料。平日9便、祝日5便運行。</p> <p>事業費は、指定管理料65,098千円から国庫補助金17,410千円を差し引いた47,688千円を予算計上している。</p> |
| <p>3 事業の効果</p> | <p>明確な基準や目安はないが、目的や対象、ニーズを明確にした上で、財政状況も勘案しながら、必要なサービスを継続的に提供できるよう取り組みたいと考えている。</p> |
| <p>4 事業の現時点での課題及び今後の方向性</p> | <p>車いす対応、満員時の対応、高齢者の増加に伴う対応などが今後の課題と考えている。</p> |
| <p>5 主な質疑・応答</p> | <p>Q 既存のバス及び鉄道から500メートル以上では高齢者にとって遠く感じる。更にきめ細かい要望はないか。</p> <p>A 要望はある。瀬戸市のようなコンパクトな車両での対応も必要と考えている。</p> |

| | |
|------------------------------|--|
| | <p>Q 車両6台は市が購入しているのか。</p> <p>A 負担感はあるが、需要に対応していかなければならない。</p> <p>Q バス事業と健康都市とのかかわりはどうか。</p> <p>A 空白地域の解消と共に、利用者の7割を占める高齢者が元気に外出できるよう「外に出かけたくなるバスづくり」「すんでいるところに迎えに行く感覚で」「買い物、通院を支える」ことを重視している。</p> <p>Q アンケートは利用者向けとなっているが、一般市民への対応はどうなっているか。</p> <p>A 意見聴取について一般市民へは機会を捉えてを行うよう心がけるが、基本は利用者アンケートでおこなっている。</p> |
| <p>6 考察 (所感・本市への提言等)</p> | <p>地形や他の交通機関の状況など、本市とは条件が異なるところではあるが、試験運行から本格運行、またその後の運行内容変更のタイミングで利用者数が伸び、現在は本格運行開始時の1.8倍、約236,000人と利用が増加していることに着目したい。地域毎の協議会は設定しておらず、また利用者以外の市民アンケートを行っていない中で、どのように市民要望を把握し、利用者増を実現しているのか。</p> <p>事業の経緯の中にいくつかのポイントがあるが、一つは、試験運行前に「尾張旭市交通問題対策協議会」をし設置し、学識経験者や市民の代表、公募委員などと共に地域交通に係る勉強会や、他自治体の事例の視察、公共交通移動実態調査の検証などを行い、市内の公共交通の実態、求められる施策、何を目的として実施するかなどを提言としてまとめ、これを試験運行の仕組みの土台としたこと。また、3年半の試験運行期間中に2回のルートの見直しや車両の変更を行い、その後本格運行になってからも、事業全体に関わる運行方式の変更やルートの見直しなどを大胆に行っていることは利用増と無関係ではないと考える。</p> <p>今ひとつは、高齢者の免許返納後の暮らし、移動を支えることを健康都市宣言とのかかわりの中で、事業の重要な課題と位置づけていると感じた。</p> <p>本市において、今後迎える超高齢化社会のもとのまちづくりを、より市民の暮らしに寄り添ったものにしていく</p> |

| | |
|------------------|-------------------------------|
| | ために、尾張旭市の公共交通施策は大いに参考になると考える。 |
| 7 その他 (特記事項等) | |